

TLIFES を利用した安否確認システムの提案

金澤 晃宏* 旭 健作 鈴木 秀和 川澄 未来子 渡邊 晃 (名城大学大学院)

Proposal of Safety Confirmation System using TLIFES

Akihiro Kanazawa*, Kensaku Asahi, Hidekazu Suzuki, Mikiko Kawasumi, Akira Watanabe, (Graduate School of Meijo University)

災害の多発により住民が避難を強いられる状況が増えてきている。大災害発生時には被災者の安否確認が行われるが、通話規制などにより連絡手段が使えない場合がある。我々はユーザが日常的に使用しているスマートフォンの GPS や各種センサより得られたデータをインターネット上にあるサーバで蓄積、解析を行い、ユーザがライフログデータを共有することができる統合生活支援システム TLIFES(Total LIFE Support system)を提案している。本稿では TLIFES の機能を利用した災害時安否確認システムを提案する。TLIFES により集められた直近のライフログを安否確認の手掛かりとして、日常的に使用している電子掲示板で共有することにより安否確認をサポートすることができる。

キーワード：TLIFES, 安否確認

1. はじめに

東日本大震災では広範囲にわたって被災し、多数の被災者が出た。このとき、安否確認のため電話回線が混雑し、通話規制が行われた。これにより離れた家族間での安否確認や情報交換が困難となった⁽¹⁾。そのため、災害発生後において住民の安否確認や避難活動を迅速にサポートすることができるシステムが求められている。

災害時を想定した安否確認のシステムとして NTT コミュニケーションが提供する「災害用伝言ダイヤル」⁽²⁾、各携帯通信事業者が提供する「災害用伝言板」^{(3)~(7)}がある。これらシステムでは、発信者の安否情報やメッセージを各携帯電話会社が預かり、問い合わせた受信者に届ける。しかし、これらのシステムは災害時にしか提供されず、普段使い慣れていないシステムを災害時に使用することは困難であるという課題がある。

また、インターネットを使った安否確認システムとして「ココいるネット」がある⁽⁸⁾。このシステムでは、GPS 対応の機器ではワンボタンで位置情報を登録することができる。しかし、位置情報の登録時にのみ GPS を起動するため、屋内などの GPS が使えない場所にいる場合は位置情報を登録できない。

同様にインターネットを使った研究レベルのシステムとして「問い合わせと同時に自己安否登録を行う安否確認システム」がある⁽⁹⁾。このシステムではユーザが相手の安否をインターネット上の安否確認サーバに問い合わせると同時に、自分の無事を自動的に安否確認サーバに登録する。し

かし、このシステムは現在位置の情報を送付していないので、安否を確認したい相手の居場所が分からない。

我々はスマートフォンの GPS や各種センサより得られたデータをインターネット上にあるサーバに蓄積し、ユーザが情報共有することができる統合生活支援システム TLIFES (Total LIFE Support system) を提案している⁽¹⁰⁾。TLIFES で取得するデータの中には GPS による位置情報も含まれており、定期的に TLIFES サーバに送信、蓄積している。また、TLIFES では、家族を含む地域コミュニティの活性化のために SNS (Social Networking Service) の機能を組み込むことを計画している。ここで、提供する機能としては、家族、友人などのグループの定義、公開情報の設定、グループ内での簡単な IP 電話、チャット機能などである。

本稿では TLIFES で蓄積しておいたデータを利用した災害時安否確認システムを提案する。TLIFES により集められた最新の位置情報や行動情報を、災害時に家族などで日常的に使用している電子掲示板上で共有する。家族の最新情報の閲覧、掲示板での情報交換等により、安否確認を行うことができる。

2. 既存技術

〈2.1〉 伝言ダイヤル

電話を用いた災害時の安否確認システムとして「災害用伝言ダイヤル」⁽²⁾がある。このシステムは、災害時において被災地への音声発信が集中することでつながりにくくなった場合に提供される。被災地やその他の地域から電話で伝

言の録音を行い、電話番号を入力することで災害用ダイヤルセンタに登録する。録音した音声は電話番号の下 3 桁により、全国の伝言蓄積装置に自動分散される。再生するときには登録した電話番号を入力することでその電話番号に対応した音声再生される。しかし、これらシステムは災害時にしか提供されず、被災地外からは録音することができず、再生しかできない。また、利用方法が分からなかったり、そのシステムの存在を知らなかったりする場合がある。

〈2・2〉 問い合わせと同時に自己安否登録を行う安否確認システム

災害時にインターネットを使った安否確認を行うシステムの研究として「問い合わせと同時に自己安否登録を行う安否確認システム」がある⁽⁹⁾。このシステムでは、通信手段を用いて情報共有できる環境において、安否確認したい人同士が、各自の所有する携帯端末から安否確認システムを用いて精度よく容易かつ互いに安否確認できることを目指している。このシステムではユーザ A がユーザ B の安否を安否確認サーバに問い合わせると同時に、ユーザ A 自身の無事を自動的に安否確認サーバに登録する。これにより、ユーザ A が安否の問い合わせしか行わなくとも、ユーザ B が安否確認をした際にユーザ A の安否が確認できる。また、ユーザ B の無事が登録された時に、ユーザ B の安否を問い合わせた全てのユーザに対してユーザ B が無事であった旨を通知する。しかし、このシステムは安否を確認したい相手が安否確認サーバに問い合わせをすることが安否確認の動作の前提となっているため、迅速な安否確認ができない。

3. TLIFES

図 1 に TLIFES の概要を示す。TLIFES では、サービスを受けるメンバは全員スマートフォンを携帯していることを前提とする。スマートフォンの通信機能とセンサ機能を活用し、ユーザ同士が情報を共有することができる。センサ情報の取得には、GPS や加速度センサ、地磁気センサを用いる。スマートフォンは、取得したセンサ情報をインタ

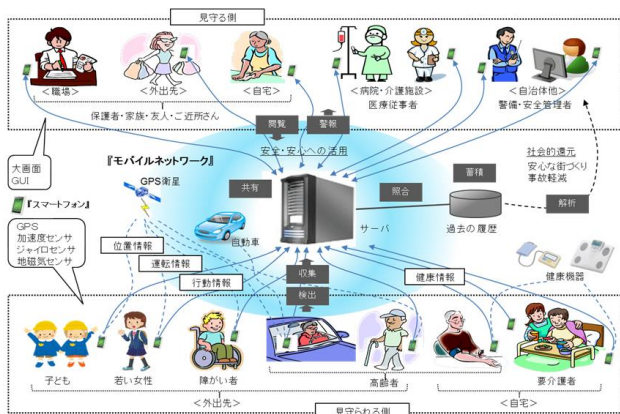


図 1 TLIFES の構成

Fig. 1. Configuration of TLIFES

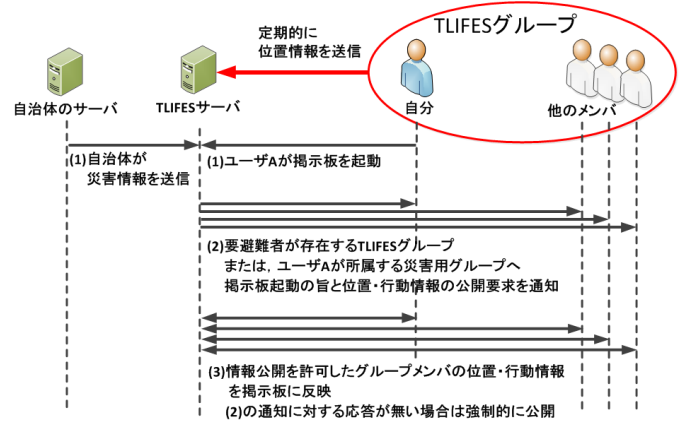


図 2 提案方式の処理の流れ

Fig. 2. Processing flow of the proposed method

ーネット上の TLIFES サーバに定期的送信し、データベースに蓄積する。蓄積された情報は、許可されたメンバであればパソコンやスマートフォンからいつでも閲覧することができる。TLIFES サーバでは、現在と過去のセンサ情報を比較することにより、ユーザに異常がないかどうかを判断する。異常が検出された場合には、予め登録されたメールアドレスに対し、アラームメールを配信する。これにより、緊急時においても迅速な対応が可能である。また、ユーザ自身も自分のセンサ情報を閲覧することにより、私生活や健康管理について振り返ることができる。行動範囲を学習しておき、通常行動範囲を越えたときにアラームメールを送信する機能は実現済みであり、評価を終えている⁽¹⁰⁾。また、以上の動作を行動判定を元に、GPS の起動タイミング、起動時間を減らすことにより省電力で実現している⁽¹¹⁾。

4. 提案方式

提案方式では、TLIFES によって集められた位置情報などを家族専用の電子掲示板で共有することにより迅速な安否確認や避難活動をサポートすることができる。

〈4・1〉 前提

情報交換を行う住民全員がスマートフォンを保持しており、TLIFES が導入されているものとする。位置情報や行動情報の公開非公開設定がされているものとする。TLIFES サーバは自治体などから災害情報や災害規模に応じた避難場所を取得することができる。また、家族のグループ、親族のグループなどが予め定義されており、掲示板にて連絡のやり取りが行えるものとする。また、自治体との連携において、避難勧告等の災害情報を TLIFES サーバが取得できるものとする。

〈4・2〉 動作

TLIFES サーバは災害発生時や避難勧告発令時、災害規模に合わせて被災地域の住民のスマートフォンに災害用掲示板を起動する。

図 2 にシステムの処理の流れを示す。自治体が災害情報

(災害の規模やそれに応じた避難所)を送信,もしくは,グループメンバのうちの 1 人が災害用掲示板を起動することをトリガーとする.

(1)避難地域内の TLIFES ユーザへ通知

TLIFES サーバは自治体の災害情報を受け取り, TLIFES サーバが保持しているユーザの位置情報を元に, 避難地域内のユーザとそのグループメンバにアラートと共に災害情報と位置・行動情報公開要求の通知を送信する. また, ユーザが災害用掲示板を起動した場合はそのユーザが所属するグループにのみアラートと共に位置・行動情報公開要求の通知を送信する.

(2)グループメンバの位置情報を反映

位置・行動情報公開を許可したグループメンバ全員の位置情報を, グループ専用の災害用掲示板のマップに反映する. 本来, TLIFES ユーザ間の位置情報の公開には設定が必要であるが, 非常時には家族などの設定済みグループ内に範囲を限定し, 位置・行動情報を公開する. また, 一定時間以内に通知に対する応答が得られなかった場合は非常事態と判定し, 位置・行動情報が非公開設定でない場合はグループ内に位置・行動情報を公開する.

後述の安否入力画面や掲示板画面から TLIFES ユーザ自身の安否や状態の入力を行う. 入力された安否情報や掲示板のコメントなどは TLIFES サーバがログとして保持し, ログが更新される度に災害用掲示板に反映する.

〈4・3〉 提案方式の利点

この提案方式の利点としては以下の 3 点が挙げられる.

(1)家族の位置が即座に分かる

提案方式では定期的送信している位置情報を利用して, 災害用掲示板起動後, 即座に互いの居場所が分かる. また, 被災地のネットワークが断絶し, 使用できないときでも直前の情報がサーバ上に残っているおり, 安否の手掛かりとなる. このように家族全員の位置が瞬時に把握できることが提案方式の最大の特徴である.

(2)日常的に利用するシステムと変わらないインターフェイス

提案方式は日常的に利用することを想定している TLIFES の機能を活用するため, 利用者側は使い慣れたシステム, つまり普段と同じ動作を行えば良い. 安否確認をより正確なものとするために, 災害時特有の動作もあるが, 極力簡単な操作とする. 後述の GUI で記述する.

(3)ユーザ側から起動可能

提案方式はユーザ側からも起動が可能である. これにより避難勧告発令などの危険な状態になる前に家族内で話し合うことができる. また, 火災などの局地的な災害の場合でもユーザ側が起動することにより安否確認を行うことができる.

〈4・4〉 GUI

提案方式である災害用掲示板は大きく分けて 5 つの画面で構成される. 災害時特有の動作が必要となる場合は, 極

力簡単な方法で操作できるものとする. また, 他のサイトやアプリに移動した際は, アプリアイコンを画面上にオーバーレイさせることにより, 他のアプリとの移動がスムーズに行えるものとする. 以下にその GUI を記述する.

(1)ホーム画面

図 3 にホーム画面の表示例を示す. ユーザを中心として地図上にグループメンバの位置情報を表示する. さらに, 自治体サーバから避難所の位置情報が取得できた場合には, 避難所の位置も併せて表示する. 家族の位置情報は TLIFES サーバが保持している最新の情報から取得する.

(2)安否入力画面

図 4 に安否入力画面の表示例を示す. ユーザの状態を 4 つのボタンから選び入力する. この入力情報は TLIFES サーバに保存され, 入力された内容は安否閲覧画面に反映される. また, 入力後は安否閲覧画面へ自動的に移動する.



図 3 ホーム画面
Fig. 3. Screen of Home



図 4 安否入力画面
Fig. 4. Screen of the safety input



図 5 安否閲覧画面
Fig. 5. Screen of the safety confirmation

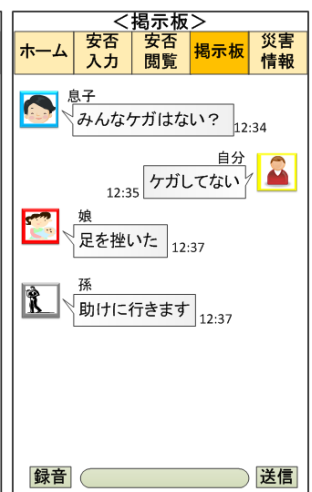


図 6 掲示板画面
Fig. 6. Screen of the bulletin board

(3)安否閲覧画面

図 5 に安否閲覧画面の表示例を示す。安否閲覧画面では画面上部ではユーザを中心とした地図上にグループメンバーの位置をプロットし、画面下部ではグループメンバーの最終応答時間と安否入力の状態と位置情報の土地名を表示する。グループメンバーの状態は、それぞれのメンバーの安否入力画面での入力が反映される。また、TLIFES によって行われる行動判定の情報を表示する。

(4)掲示板画面

図 6 に掲示板画面の表示例を示す。上部バーの掲示板を選択した際、TLIFES アプリに普段使っているチャットアプリを登録している場合はそのアプリを、そうでない場合はデフォルトとして TLIFES のチャットと操作方法が変わらないものを提供する。TLIFES のチャットでは文字入力が高難易度な状況を想定し、音声を変換する音声変換や録音でも情報の発信を行うことができる。また、ウィジェット化により、他のチャットアプリを使用するユーザでも情報を読み取りやすくする。

(5)災害情報画面

災害情報画面では外部サイトにアクセスするためのリンクで、ガス、水道、電気などのライフラインや交通状況、災害規模などにカテゴライズして表示する。

5. シルバー人材センターでのヒアリング調査

提案方式の評価方法については、今後検討が必要である。ここでは、シルバー人材センターで行った、提案方式に関するヒアリング調査とその結果について記述する。ヒアリング調査結果は提案方式に反映済みである。

〈5・1〉 調査目的

ヒアリングの目的としては 3 つある。提案方式では利用者はスマートフォンを持つことが前提となる。そのため、シニア層が抱くスマートフォンに対する意識を調査する。また、提案方式の根幹となる TLIFES、スマートフォンを活用した生活支援サービスにおいて、家族と互いに見守りあうことに対する意識・意見を調査する。提案方式の災害用掲示板の機能でどれが最も重要な機能となるか、掲示板画面での入力は何が良いか、災害時に欲しい情報などを調査する。

〈5・2〉 調査概要

調査対象者は、60 歳台から 80 歳台の男女計 30 名、実施日は平成 25 年 11 月 28 日、場所は長久手市シルバー人材センター、題目はスマートフォンに関わる研究、調査方法は調査員 1 名と対象者 2 名によるヒアリングである。

〈5・3〉 調査結果と考察

表 1 に調査結果を示す。対象者にフィーチャーフォン所持者はいたが、スマートフォン所持者はいなかった。スマートフォンの利用に対して抵抗感についてはおよそ半々で抵抗感がなかった。また、抵抗感があると答えた人の理由は利用料金が主なものであった。このことから、スマートフォンの利用料金が安くなれば、スマートフォンを所持す

表 1 調査結果

Table 1. Survey results

スマートフォンへの抵抗感	
まったくない	8
あまりない	0
ふつう	4
少しある	3
とてもある	10
見守りあうことへの抵抗はあるか?	
まったくない	8
あまりない	5
ふつう	1
少しある	6
とてもある	9
最も重要だと思う画面 (機能)	
ホーム (近くの避難所の位置)	0
安否入力	3
安否閲覧 (家族の安否)	16
掲示板 (話し合いの場)	1
災害情報	0
掲示板への入力方法としてはどれが使いやすいか	
手入力	1
音声認識	7
録音	11
自分や家族が災害にあったとき、 どんな情報が欲しいか	
家族の安否	8
避難所の位置	2
警報の状態	0
電気、ガス、水道の供給状態	6
その他	交通情報

る可能性は十分にあると考えられる。

家族と見守りあうことに対しての抵抗感は半々であった。抵抗があると答えた人の意見としては、家族に対して日常的に現在の位置・行動情報を公開したくないというものであった。その一方で、災害時ならば仕方ないという意見もあった。見守りはプライバシーに関する問題となり得るので何らかの工夫をする必要がある。

災害時に気になる情報や重要な機能として安否確認が多くを占めた。また、安否の次に電気、ガス、水道などのライフラインの状態が欲しい情報となった。家族の安否が災害時欲しい情報として最も有力であることを再認識した。また、掲示板への入力方式としては音声認識や録音といった手入力の少ない方式を選ぶ傾向にあった。掲示板への入力方法として見やすく取り入れることにより、ユーザにとってより利用しやすいものとなると考えられる。

〈5・4〉 調査結果を踏まえた改良

提案方式における位置情報利用のプライバシーに関する

課題は、情報公開範囲を家族などのグループ内に絞ることと、家族間であってもユーザ側から起動する場合には、位置・行動情報を非公開としている相手に許可を求めることで解決を図った。これにより、許可なく位置・行動情報を知られることは無くした。また、外部サイトを利用し、ライフラインの情報を検索しやすくすることで、情報を集めやすくすることとした。

6. まとめ

本稿では、TLIFES の機能を利用した安否確認支援システムを提案した。災害時においても利用できる可能性の高いインターネットを利用し、日常的に取得しているライフログを利用して情報を共有する。災害用掲示板にはメンバーの位置情報が表示され、入力は通常時の操作と同様の方法で行うことができる。これにより安否確認をサポートする。今後、実用化に向けて実装を進めていく予定である。

文 献

- (1) 日本テレワーク学会テレワークを支援する ICT ツール研究部会, 金丸利文, 榊原憲, 柳原佐智子, 坂本有芳, 櫻井広幸, 佐藤百合子: 大震災直後の安否確認における ICT ツールの活用状況(特集 大震災とテレワーク), 日本テレワーク学会誌, Vol.9, No.2, pp.7-13, oct.2011.
- (2) NTT Home Page 社会環境活動・災害対策 NTT グループにおける災害対策の取組み 通信のご利用方法 NTT グループの災害用伝言サービス 災害用伝言ダイヤル (171)
<http://www.ntt.co.jp/saitai/171.html>
- (3) 災害用伝言板 NTT ドコモ
https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html
- (4) 災害用伝言板サービス | 災害時・緊急時対策 | au
<http://www.au.kddi.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>
- (5) 災害用伝言板 モバイル ソフトバンク
<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/about/boards/>
- (6) 災害用伝言板サービス ウィルコム (WILLCOM)
<http://www.willcom-inc.com/ja/info/dengon/>
- (7) 災害用伝言板サービス・オプションサービス イー・モバイル
<http://emobile.jp/service/dengonban.html>
- (8) インターネットを使った 安否確認システム ココいるネット
<http://ad.koko-iru.net/>
- (9) 青木良輔, 宮田章裕, 橋本遼, 瀬古俊一, 渡辺昌洋, 井原雅行, 小林透: 問い合わせと同時に自己安否登録を行う安否確認システム, マルチメディア, 分散協調とモバイルシンポジウム 2013 論文集, pp.1952-1959, Jul.2013.
- (10) 大野雄基, 手嶋一訓, 加藤大智, 山岸弘幸, 鈴木秀和, 旭健作, 山本修身, 渡邊晃: TLIFES を利用した徘徊行動検出方式の提案と実装, 情報処理学会論文誌コンシューマ・デバイス&システム, Vol.3, No.3, pp.1-10, Jul.2013.
- (11) 加藤大智, 竹腰昇太, 大野雄基, 鈴木秀和, 旭健作, 渡邊晃: TLIFES における省電力化を目的とした位置測位手法の提案と実装, 研究報告コンシューマ・デバイス&システム (CDS), 2013-CDS-6, No.13, pp.1-6, Jan.2013.